

頑張れ、^{ちよく}“捗”!

□ コロナ禍の中で、リモートワークが多くなりました。そんな中、仕事がかどらないという人も少なくないようです。また、在宅勤務だと上司に対して仕事の成果を目に見える形にしなければならない、という話も聞きます。せちがらいなあと思いつつ、私自身、在宅勤務で必死にグラフを作ったり、原稿の文字数を増やしたりしているきょうこのごろです。しかし、目立った仕事の成果が丸1日あげられないこともあります。それでも上司への報告はしなければならない。そんなときに使えそうなコトバが「進捗はあります!」です。

『三省堂国語辞典』によると「進捗」は「(計画や仕事が)はかどること」とありますが、どう読むか知っていますか?

答えは“しんちよく”。

2009年2月にNHK放送文化研究所が実施した「放送における漢字表記についての調査」では、「進捗」と「進ちよく」をどう書くのが好ましいか聞いたところ、36%の人が「進捗」と漢字表記、48%の人が「進ちよく」とかな交じりの表記を希望しました。なかなか「捗」の表記普及は進ちよくしていないような雰囲気です。

もともと、この「進捗」の「捗」という漢

字は1981年の常用漢字表にはない「表外字」といわれるものでした。ところが2010年の常用漢字表の改定の際に「ちよく」と読む場合に限り「表内字」に仲間入りした漢字なのです。歴史が浅く、まだ一般の支持率が高くないのかもしれませんが。

現在、日本新聞協会の『新聞用語集』(追補版)やNHKの漢字表記辞典では「進捗」には読みがな(ルビ)を振るように書かれています。放送で使う際には注意してください。

ちなみに訓読みの「捗る(はかどる)」は常用漢字表に載っていない読み方なので、漢字表記するとしたら少なくともルビが必要です。「捗る(はかどる)」の認知も、あまりはかどっていない様子。

頑張れ、“捗”!

この「進捗」ということば。情報処理の世界では常とう句になっています。システム構築で仕事が停滞、終わりの見えない徹夜続き。そういったときに、「でも進捗はあります」と言うのだとか。使い方次第では、とても重宝しそうです。

というわけで、本日の在宅勤務の成果報告は「進捗(ちよく)はありました」といたします。 濱田考弘(はまだたかひろ)